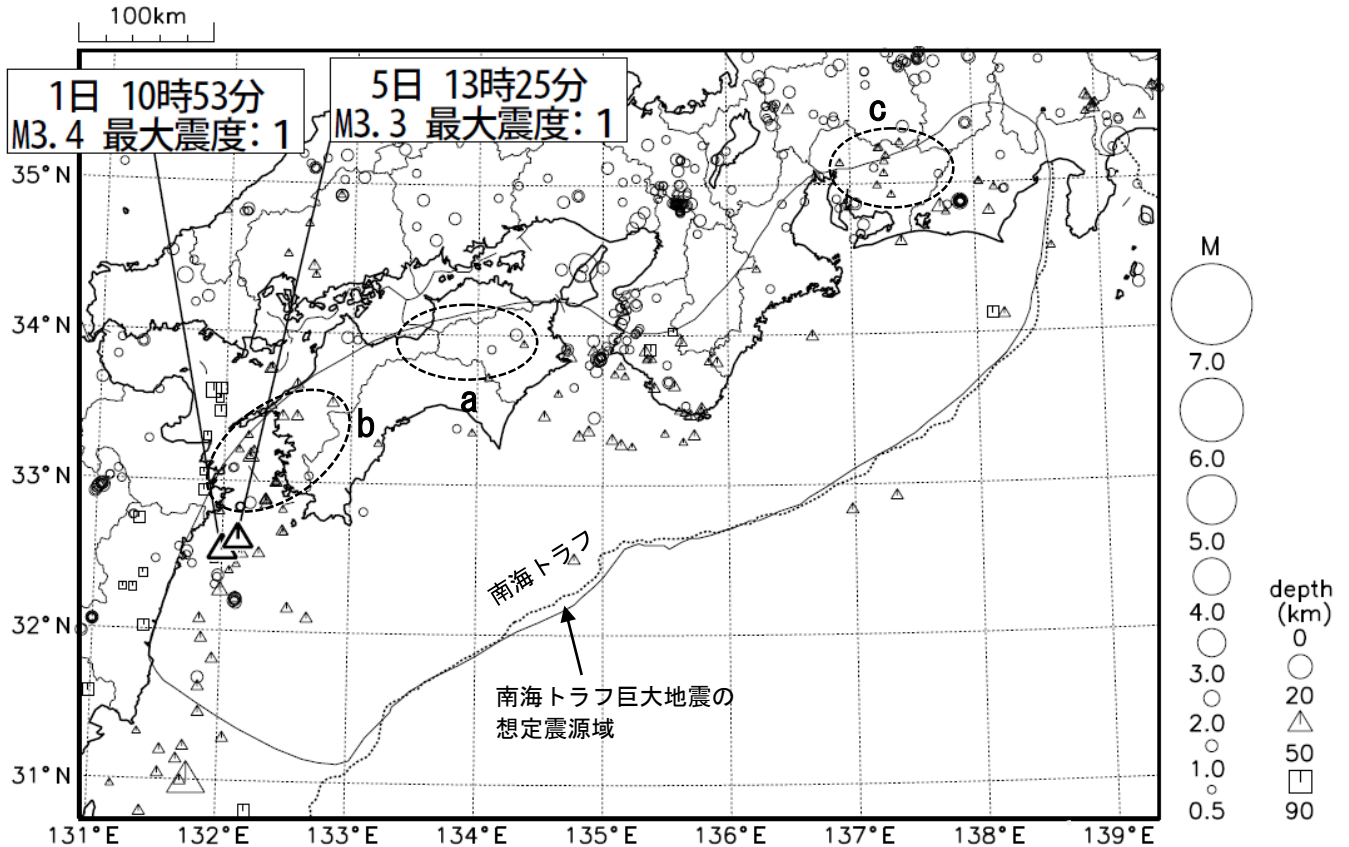


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 6

* 震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成31年2月1日～2月7日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

[概況]

2月3日頃から、東海のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生していると推定される。

[主な地震活動]

・特に目立った活動はなかった。

[主な深部低周波地震（微動）活動※¹と地殻変動]

[領域a] 1月23日以降、四国東部で深部低周波地震（微動）を観測している。

[領域b] 2月1日以降、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測している。

[領域c] 2月3日以降、東海で深部低周波地震（微動）を観測している。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されているひずみ計※²に変化が現れている。これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：気象庁、産業技術総合研究所のひずみ計。